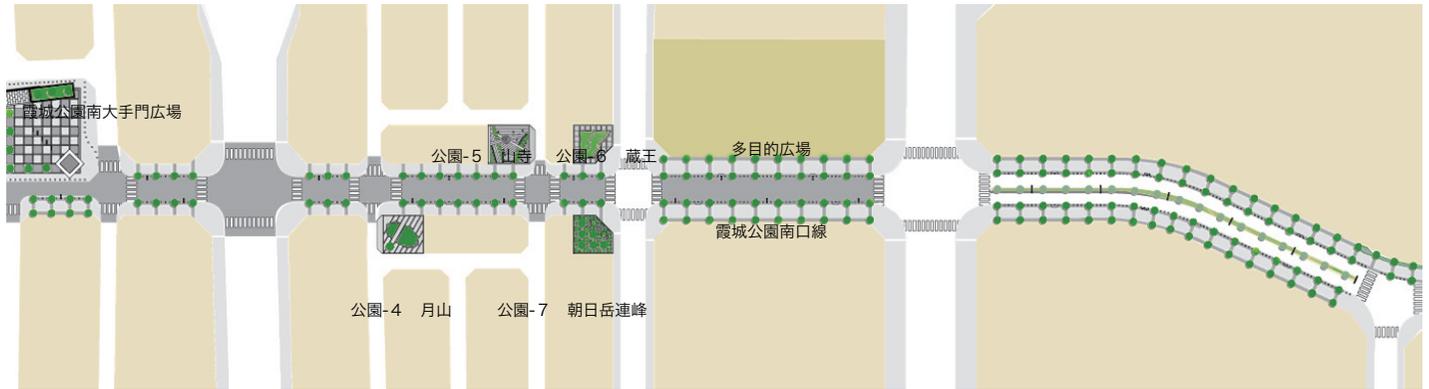


山形市ふるさとの顔づくり設計競技

所在地： 山形県山形市
 主催者： (財)都市づくりパブリックデザインセンター
 期間： 1996
 対象面積：約29.9ha
 賞： 第3回ふるさとの顔づくり設計競技都市づくりパブリックデザインセンター会長賞

「ふるさとの顔づくり計画」設計競技での、霞城公園南口線と4つのポケットパークの修景設計の提案である。出羽三山とその連峰に囲まれた山形市の特徴を4つのポケットパークで表現している。

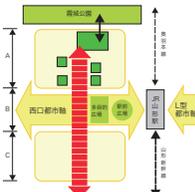


霞城公園南口線

過去と未来を繋ぐ文化軸の形成

都市軸としての一体的な確保とC-路-Aの緩やかな変化のなかに長き都市の文脈を表現

- 霞城公園へのアプローチの演出
- 東家から現在へ、現在から過去へ
- インフォーマル(曲線)からフォーマル(直線)へ
- 歩車分離から歩車共存へ
- 歩くまじりとるぼとしてのみち
- 南北軸周辺の都市活動の結節

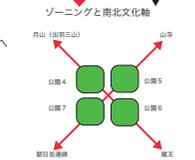


ポケットパーク

小宇宙から景観(ランドスケープ)へ

山形盆地のイメージをかたちづくる象徴的自然を小宇宙としてそれぞれのポケットパークのランドスケープとしての表現

- 公園4：月山(出羽三山)
- 公園5：山寺
- 公園6：蔵王(サブゲート)
- 公園7：朝日岳連峰(サブゲート)

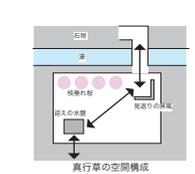


霞城公園南大手門広場

時空の移ろいに風景の物語を

霞城公園のゲートとして、都市と人間の新しいドラマの舞台として時間と空間の移ろいを表現

- 霞城公園へのアプローチの演出
- 家、石垣、公園、塚山の置層化された景観の視点構
- 真行草の空間構成(壁・柱、水、枝垂れ桜)
- 山形の四季の演出
- 南北文化軸の起終点
- 出会いとくつろぎの場



まちづくりの作法

